



企画展

「ツバキとサザンカ 石井勇義と牧野富太郎の友情」

事前のお知らせ

を開催！

とき 【前期】2月28日(土)～3月11日(水)【後期】3月14日(土)～3月29日(日)  
前期と後期で展示内容が変わります。  
午前9時30分～午後4時30分 火曜休館

ところ 牧野記念庭園記念館 (東大泉6-34-4庭園内) 入場無料

世界的な植物学者で、練馬区に居を構え「日本の植物学の父」と呼ばれた牧野富太郎博士の住居跡を整備した区立牧野記念庭園で、「ツバキとサザンカ 石井勇義と牧野富太郎の友情」と題した企画展を、28日(土)から開催する。

石井勇義は、牧野博士と親交の深かった園芸家である。昭和8年頃、当時関心の低かった江戸時代の園芸植物に目を向けた石井は、ツバキ・サザンカの図譜出版を企画し、牧野博士が最も信頼していた画工・山田壽雄に図の制作を依頼した。図譜は出版されることなく石井は亡くなったが、図を収めた帙(ちつ・書物を包む覆い)には、牧野博士が「日本産ツバキの図」と書いた表題が貼られている。

本展では、前期と後期に分けて山田が描いた彩色のツバキ・サザンカの図、63枚を展示する。

また、期間中の2月下旬から3月中旬にかけて、同庭園内では黄色い花を咲かせるフクジュソウや、白い花に淡い紫色を帯びるユキワリイチゲが見頃を迎える。美しく色づいた花を見ながら、春の訪れを感じることができる。



山田壽雄筆 藪椿(山椿)

国立国会図書館蔵



フクジュソウ(イメージ)

【牧野記念庭園の紹介】

牧野富太郎博士が大正15年から94歳で亡くなる昭和32年まで居住し、自らが採取してきた植物を植え、「我が植物園」として愛した住居跡を整備した庭園。

博士の死後、この植物学ゆかりの聖地を広く一般に開放し、博士の偉業を末永く後世に伝えようと、練馬区が昭和33年に開園した。園内には300種類以上の草木類が植栽されており、スエコザサ、センダイヤ(サクラ)、ヘラノキなど、大変珍しく学問的にも貴重な植物を多数見ることができる。

交通案内：西武池袋線「大泉学園駅」南口下車 徒歩5分

開園時間：午前9時～午後5時 / 入園無料

休園日：火曜日(火曜日が祝休日にあたる場合は、その直後の祝休日でない日を休園) 年末年始

チラシに掲載されている講演会「ツバキ・サザンカの魅力と石井勇義」については、申込受付が終了しました。

【問い合わせ】 花とみどりの相談所 電話03-3976-9402